

GCL NEWSLETTER 第 6 号 (2014.03)



無謀さを追求せよ。

GCL 学生募集担当、須田礼仁教授インタビュー

VIA GLE / ESI プログラム

GCL Executive ランチタイム - LINE 株式会社

GCL コース 2013 年度を終えて



無謀さを追求せよ。

須田礼仁教授 インタビュー (GCL 学生募集担当)

M1 で新しく GCL に加わる学生には、二つの典型があると思います。一つは、情報を専門とし、これを社会に役立てたいと思っている人たち。もう一つは、情報以外を専門とし、情報技術を使ってそれぞれの分野を大きく発展させたい人たちです。M1 の段階では必ずしも明確な計画を持っている方を求めているわけではなく、GCL の目指すものに興味を持った方に幅広く集まってもらいたい。願わくは、いろんな分野の方が集まって化学反応を起こすということを期待しています。

GCL では、M2 になる際に、M1 の約 60 人から約 20 人になりますが、これは振り落としを行うというわけではありません。M1 の冬頃に 2 年次に進みたいかどうか申告してもらいますが、それまでの 1 年弱の間に、GCL コース生として進むのか、従来型のアカデミックな研究で学位を目指すのか、自然と意思が固まってくようです。なお、GCL は 5 年一貫の教育ですから、GCL コース生に進む場合は、少なくとも博士課程に行く決断をしてもらう必要があります。

博士課程では、「社会イノベーションプロジェクト」に取り組んでもらいます。このプロジェクトで何をなせばいいのか戸惑う人たちもいるかとは思いますが、この 4 月から博士課程に入る編入生の取り組みが参考になる例となっていくでしょう。社会イノベーションプロジェクトが博士論文のテーマになるでしょうから、その点は留意してプロジェクトの企画を練ってください。1 人で変革を起こしてしまう特殊な人もいるでしょうが、仲間を募るとするのが社会イノベーションプロジェクトの在り方として自然だと思っています。プロジェクトを自分だけで完結する必要はないし、博士課程の 3 年を超えて、さらに発展してゆくことも多いでしょう。大きく社会を変えるものというのは、もっと時間のかかるものから。

GCL は、学生にとっても担当者にとっても、かなりチャレンジングな取り組みです。プロジェクトは必ずしも成功する例ばかりではないでしょう。しかし、失敗することを許さなければ、大きなものは出てこない。ある種の無謀さを追求する必要があります。夢やビジョンを大きく持って、その実現のために何が必要かを突き詰めて考えられ、目標に向かって責任感を持って進んでいける人。GCL は、そんな人を求めています。

(聞き手：森友亮、須原宜史 撮影：須原宜史)

VIA GLE / ESI プログラム



2/6から2/16にかけ、コース生計12名がスタンフォード大学およびサンフランシスコ・ベイエリアで行われた学生交流プログラムに参加しました。

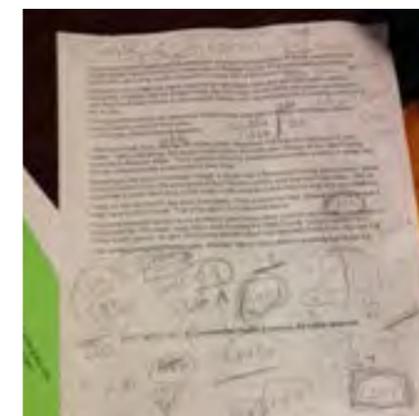
VIA (Volunteers in Asia、スタンフォード大学で発祥したNPO)が主催する「GLE (Global Leadership & Engagement)」「ESI (Exploring Social Innovation)」という2つのプログラムで、GLEは「リーダーシップの資質を伸ばす」、ESIは「創造的問題解決のためのデザイン思考のスキルを身につける」ことを掲げています。コース生は、自らの興味に応じて2つのプログラムのうち一方に参加しました。

GLEに参加した糸永順子さん(学際情報学府・M1)

は、チーム課題として貧困問題(Global Poverty)に取り組むグループを結成。リーダーシップについてのワークショップを受けつつ、チームプロジェクトとして路上ホームレス生活者たちの状況の視察や、各々の出身地域の貧困地域についてディスカッションなどを行いました。チームプロジェクトを通し、自分が日本の貧困についてきちんとした知識や知見を持っていないことを認識し、もっと幅広い知識を得る仕組みと機会が必要だと感じたといいます。「プロジェクトで取り組んだ貧困の問題については、私の研究課題である貨幣経済に連なる問題であり、その事例を体験も含めて考察することができたのは非常に得難い経験となった。今後関連の先行研究を調査するなどし、さらに知見を深めていきたい」(糸永さん)。

一方、山元浩平さん(情報理工・M1)は、研究室で学ぶコンピュータサイエンスを実社会でいかに役立てるかを考えるため、ESIに参加しました。特に、デザイン思考とゲーミフィケーションについて学んだといいます。デザイン思考には、Define、Ideate、Prototype、そしてTestの過程が重要だとまとめました。国籍や年齢、性別などが違う多様な人々との交流にも大きな印象を受けたようでした。「大学の中だけで学んでいるだけでは、研究している内容が社会の実際の問題から乖離してしまう。ESIプログラムに参加して得られた経験は、私の研究をより実社会に則したものにしてくれると思う」(山元さん)。

掲載した写真は、糸永さん、山元さん、施井泰平さん(学際情報学府・M1)の提供です。



■ GCL Executive ランチタイム - LINE 株式会社



Executive ランチタイムの様子 (撮影・須原宜史)

ビジネスの現場で働く社員の方と学生が交流する GCL Executive ランチタイムが 2/13(木)、17(月)の2回、LINE 株式会社において行われました。今やユーザー数3億5千万人を突破したスマートフォン向けアプリ「LINE」がどのように生まれ、今後どのように発展するかについて、企画、人事担当の社員さんと6名の学生が意見を交わしました。

ムーンと名付けられ、グッズが販売されるほどの人気を誇っていますが、誕生のいきさつに強いユーザー視点があったというのは驚きでした。今後は海外展開も期待され、ますます発展していくであろう LINE アプリですが、その成長の背景には、つながることへの情熱とユーザー行動へのあくなき探究心があることを知る良い機会でした。

<参加した学生の皆さんの声(抜粋)>



●伊藤優さん(情報理工学系研究科・M1)

渋谷ヒカリエ LINE オフィス社員食堂にて LINE の企画担当の方にお話を伺いました。特に LINE に開発当初から関わってきた稲垣あゆみ様の人柄にとっても刺激を受けました。大学時代から様々な企業にインターンし、自ら行動し続けてきた延長線上として、現在の仕事でも裁量権を持って様々な企画を推し進めているそうです。そのような気迫と、人と人をつなげたいという情熱から、LINE アプリは生まれているのだと知ることができました。

また、ユーザーレビューを徹底的に行っている点も印象に残りました。LINE オフィスにはユーザーレビュー専用の部屋が存在し、新規の機能を追加する際にモデルユーザーを呼んで実際に使ってもらった感想を聞くそうです。例えばスタンプ機能の追加の際には、まったく新しいキャラクターを用いたデザインに一抹の不安があったそうなのですが、ユーザーレビューに訪れた女子高生の反応が良かったことから、そのまま本番環境に乗せることを決定したそうです。今だからこそ、そのキャラクターは



●浦野由平さん(教育学研究科・M1)

私はいじめに関する研究をしており、ネットいじめに関心があるため今回参加しました。

近年、青少年の携帯電話所有率の増加やインターネット利用の長時間化を背景とし、SNS を介した「ネットいじめ」が新たないじめの形態として注目され始めています。ネットいじめも従来のいじめ同様、その被害者に様々な心理社会的悪影響を及ぼし得るため、その発生メカニズムの解明や予防・介入法の策定は喫緊の課題となっています。

今回の訪問を通して、LINE ではサービス内でトラブルが発生することを未然に防ぐために、専門部署を設置し、全国規模で LINE の望ましい使い方や使用上の注意点に関する講演を行うなど、さまざまな対処をしていることを知りました。そして、ネットいじめの原因はサービスそのものにあるのではなく、仲間はずれを作ること快感を感じてしまう人間の心にあることに、改めて気づかされました。



■ GCL コース 2013 年度を終えて

2013 年 4 月に第 1 期生が入学した、GCL プログラム。それから早くも 1 年が経とうとしています。GCL プログラム 1 期生が過ごした 1 年間で、GCL Newsletter に掲載したものを中心に振り返りました。

●8/23・24 第一回リーディングプログラム学生連携プロジェクト

米田佳祐さん(工学系・M1)の企画により、京都市大学デザイン学大学院連携プログラム(CGPD)予科生との交流を行いました。

●9/8-9/16 「グローバルクリエイティブフォーラム 2013 視察団」参加

コース生 3 名が視察団に参加し、シリコンバレーを視察しました。

●11/27 日本学術会議公開シンポジウム「ICT を生かした社会デザインと人材育成(実践編)」

コース生を代表して小林尚生さん(情報理工・M1)がパネル討論に臨みました。

●12/8 GCL プレゼンテーションコンペティション

コース生 22 名が 1 年次での取り組みや今後の展望についてプレゼンテーションを行いました。

●1/10・1/11 博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2013 (リーディングフォーラム)
國吉教授、浅見教授をはじめ 10 名を超える教職員・学生が参加しました。

●1/28 JUAS FUTURE ASPECT 2014
第 4 回 CIO 百人委員会に、GCL から浅見教授、木戸助教、笹渕一宏さん(学際情報学府・M1)が参加しました。

●2/1 「なめらかな社会とその敵」セミナー
GCL と東大セルフ・インベストメントの共催で、鈴木健氏を招いたセミナーを開催しました。

●2/6-2/16 学生交流プログラム(VIA 主催)
12 名のコース生が参加。リーダーシップやデザイン思考などについて学びました。

そして、2 月にはコース生たちがプランニングを行った「GCL ラボ」がとうとう完成。今後の GCL コース生の活動の拠点として始動します。

これらの他にも、GCL が主催・共催したシンポジウムや、コース生による学生交流会などが多数行われたほか、コース生は GDWS などでも経験を重ねました。

また、GCL コース生をサポートし、GCL の活動を広く学内外に知っていただくために発足した GCL 広報企画チームは、GCL Newsletter の発行を開始すると共に、コース生と教員との交流を目指した GCL ランチタイムなどの取り組みを始めました。

第 2 期生を迎え、ますます盛り上がる GCL コースを、引き続き宜しく願っています。

◆「GCL ラボ」完成!

2 月、新築して間もない本郷キャンパス工学部 3 号館の一室に「GCL ラボ」が完成しました。

本ラボは、「魅せる」「集う」「創る」をコンセプトに、GCL コース生がプランニングを行ったコース生の共有スペースです。GCL、東大のシンボルとして、9 の研究科、17 の専攻のさまざまな分野の学生が集まるコース生の交流の場にする事で、新たなアイデア創造の場となることが期待されています。

今後の GCL コース生の活動を支える拠点として、クリエイティブなアイデアがこの場で生まれ続けていくことでしょう。



イベント告知

◆ 2014/03/12 平成 26 年度 GCL コース生募集説明会

日時：3月12日(水) 13:30～15:30

場所：工学部2号館212号教室

内容：募集の概要、在学生の発表、質疑応答

1. 研究科長のご挨拶：坂井修一教授
(GCLプログラム責任者)
2. GCLの概要：國吉康夫教授
(GCLプログラムコーディネータ)
3. GCLのカリキュラムについて：萩谷昌己教授
(GCLプログラム副プログラムコーディネータ)
4. GDWSについて：苗村健教授
(GDWS企画推進機構長)
5. インターンシップについて：浅見徹教授
(プロジェクトインキュベーション機構長)
6. 学生企画：須原宜史 (GCL広報企画、D2)
7. コース生募集概要：須田礼仁教授
8. 質疑応答

申請書受付期間：3月17日(月) 10:00～

3月20日(木) 17:00(募集人数：40名)

※ GCLプログラム事務局(工学部8号館621)に直接提出する。郵送の場合も上記のメ切に必着とする。

詳細：<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/courses/application/>

◆ 2014/03/15 Workshoppers 2014: 東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム・グローバル・デザイン・ワークショップ(GDWS)第1回報告会

東京大学を進める博士課程教育プログラム、GCLのなかでワークショップの教育研究をおこなうGDWS(Global Design Workshop)の一年目の成果報告会を開催します。GDWSというワークショップとはなにか、どのような展開を考えているかを、関係者のみなさんとふり返り、考えていく場を持ちたいと思います。ふるってご参加ください!

日時：3月15日(土) 13:00～17:00

場所：東京大学大学院情報学環福武ホール地下二階福武ラーニング・スタジオ(本郷キャンパス)

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp>

主催：東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム、

(<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp>)

言語：Japanese, 日本語でおこないます。

Facebook Page: <http://goo.gl/Nq4Sfd>

事前予約：不要

◆ 2014/03/17 (R2P)

Global Design Symposium：知識創生

ビッグデータからの知識創生をテーマにシンポジウムを開催いたします。是非ご参加ください。

日時：3月17日 13:30-17:50(開場：13:00)

場所：東京大学 福武ホール(定員：184名)

(<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>)

事前申込み不要・参加費無料

問合せ先：

GCLプロジェクトインキュベーション機構(PIM)
<pim@gcl.i.u-tokyo.ac.jp>

主催：東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム

主催：東京大学大学院情報理工学系研究科 R2P (Research on Research Program on IST)

共催：東京大学公共政策大学院 PADIT 研究プロジェクト / STIG 教育・研究ユニット

司会：浅見 徹(情報理工学系研究科長補佐(産学連携担当)・教授 / PIM 機構長)

平成26年度GCLコース生募集説明会
日時：2014年3月12日(水) 13:30～15:30
会場：東京大学 工学部2号館1階 212講義室
内容：募集の概要、在学生の発表、質疑応答
司会：情報理工学系研究科副研究科長・教授 須田礼二

スケジュール：
1. 研究科長のご挨拶： 坂井修一教授 (GCLプログラム責任者)
2. GCLの概要： 國吉康夫教授 (GCLプログラムコーディネータ)
3. GCLのカリキュラムについて： 萩谷昌己教授 (GCLプログラム副プログラムコーディネータ)
4. GDWSについて： 苗村健教授 (GDWS企画推進機構長)
5. インターンシップについて： 浅見徹 (プロジェクトインキュベーション機構長)
6. 学生企画
7. コース生募集概要： 須田礼仁教授 (入試委員)
8. 質疑応答

2014年 3月17日(月) 知識創生
13:30-17:50
(開場：13:00)
東京大学 福武ホール
事前申込み不要・参加費無料
問合せ先：GCLプロジェクトインキュベーション機構(PIM) <pim@gcl.i.u-tokyo.ac.jp>

主催：東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム
主催：東京大学大学院情報理工学系研究科 R2P (Research on Research Program on IST)
共催：東京大学公共政策大学院 PADIT 研究プロジェクト

司会：浅見 徹 (情報理工学系研究科長補佐(産学連携担当)・教授 / PIM機構長)

【第1部】 知識創生の基盤
13:30-13:35 開会の挨拶
13:35-14:05 基盤講演1「ビッグデータ時代の知識創生」
14:05-14:35 基盤講演2「公共政策からの知識創生」
14:35-15:05 基盤講演3「オープンイノベーションと知識創生」
15:15-15:45 特別講演「ビッグデータ時代のグローバル・クリエイティブリーダー育成」
15:45-16:15 特別講演「産学連携による知識創生」
16:15-17:45 パネルディスカッション「ビッグデータ時代の知識創生」
17:45-17:50 閉会の挨拶

【第2部】 ビッグデータ時代の知識創生
15:15-15:45 特別講演「ビッグデータ時代のグローバル・クリエイティブリーダー育成」
15:45-16:15 特別講演「産学連携による知識創生」
16:15-17:45 パネルディスカッション「ビッグデータ時代の知識創生」
17:45-17:50 閉会の挨拶

【パネリスト(50名程度)】
浅見 徹 (情報理工学系研究科長補佐(産学連携担当)・教授 / PIM機構長)
須田 礼二 (公共政策大学院 特任教授)
國吉 康夫 (情報理工学系研究科長・教授 / GCLプログラムコーディネータ)
山本 浩夫 (経済学部長 大谷賢博特任教授 (経済学政策実用担当))
平本 隆二 (内閣府 政府CIO特任教授)
苗村 健一 (公共政策大学院 専員教授)

【司会】
浅見 徹 (情報理工学系研究科長補佐(産学連携担当)・教授 / PIM機構長)
須田 礼二 (情報理工学系研究科長補佐(産学連携担当)・教授 / GCL入試・学位審査委員)

問合せ先：gcl_admin@gcl.i.u-tokyo.ac.jp

編集・発行：

情報理工学系研究科・GCL 広報企画

(森友亮(情報理工 M2)、後藤昂彦(情報理工 M1)、金子和正(工 B3)、須原宜史(工学系 D2))

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部 8号館 621号室 GCL事務局

E-mail: pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp